

有料化財源活用事業関係者からの説明資料

- 1 コミュニティ回収
- 2 <sup>みやこ</sup>京の環境みらい創生事業
- 3 各区環境パートナーシップ事業
- 4 コミュニティ型堆肥化モデル実験
- 5 ごみ減量推進会議の活動支援



## 地域における資源回収（コミュニティ回収）等の ごみ減量の取組を行ってきた視点からの意見

平成22年6月  
革堂町<sup>リ コウドウチョウ</sup>町内会長  
松尾 禎三

### 1 取組内容

- コミュニティ回収制度を活用した古紙・古布の集団回収
- コミュニティ回収登録団体名  
『Re・革堂町』
  - ※ 「Re」には、ごみ減量・リサイクルを頑張るだけでなく、地域コミュニティのリニューアル（活性化）という思いも込めている。ちなみに「革堂」は歴史的にコミュニティ・集会場という意味とのことである。
  - ※ 市の担当者からは、コミュニティ回収登録名に、こうした名称を使用するのは初の試みと聞いている。
- 集団回収の概要
  - ・ 参加世帯数：約20世帯
  - ・ 回収日時：毎月21日 午前8時30分頃
  - ・ 回収場所：町内の定点（個人宅の空き場所を活用させてもらっている。）
  - ・ 回収業者：京都市再生資源回収事業協同組合（古くからのお付き合い）
  - ・ 回収品目：新聞、雑誌・書籍、段ボール、古着・古布
- コミュニティ回収実施に当たり町内会長が実施すること
  - ・ 回収日時を変更する場合に、変更チラシを各戸に配布
  - ・ 資源回収業者との連絡・調整・回収量報告徴収
  - ・ 市への申請・報告手続き
  - ・ 回収品目表示板の掲示（毎月21日 朝）

### 2 コミュニティ回収制度を活用することになったきっかけ

- 他の町内の方も集まる会議の場で、近くの町内でコミュニティ回収制度を活用されていることを知り、その方に教えてもらった後、上京エコまちステーションにお願いして本年6月から新たに制度を活用することとした。
- ※ なお、革堂町では、以前から古紙・古布の集団回収を実施している（いつから実施しているかは不明）。

### 3 コミュニティ回収制度を活用して良かったと思う点

- 町内会の予算がますます厳しい状況のなか、少しでも助成をしていただけるのはありがたいことである。
- ご近所付き合いが段々と薄れつつあるなかで、コミュニケーションを深めることに役立っている。
- しかしながら、一番の収穫は、自らの取組が町内会の予算獲得に貢献しているということが町の方々に「見えた」ことにより、皆様のごみ減量・リサイクルへの関心が高まったことである。

### 4 コミュニティ回収制度の課題及び改善点

- 制度の広報を充実すべき  
以前から町内会で集団回収を実施していたが、コミュニティ回収制度の存在に気づくのに三年もかかってしまった。もう少し地域への周知を充実させるべきと思う。
- 申請手続きの簡素化  
同じ取組を継続するのに、毎年同じ申請手続きを行うのは面倒であり、簡単な更新ができるよう配慮すべき。

### 5 コミュニティ回収以外のごみ政策に関する意見

- カラス対策
  - ・ カラスネットの色を町並みの美観に配慮したものにしてもらいたい。
  - ・ ごみの収集が終わった後にカラスネットを片づける作業は、高齢者にとっては結構大変である。
  - ・ むしろ、カラスを駆除する方に注力してはどうか。(東京でそのような取組を聞いたことがある。)
  - ・ カラスネットのいらぬカラスが近寄らない画期的ごみ袋材質の開発(とうがらしが効くと聞いている。)
- 食の無駄の削減
  - ・ 今の時代は、食の無駄が多すぎるので、食材を余すことなく活用する茶懐石の始末の精神を参考にして、無駄のない食事を心がけるよう、市民や事業者の方々に伝えることが、京都ならではの発信、運動になるのではないかと。

## 6 有料化財源に期待すること

- ・ インセンティブが働く施策に使ってもらいたい（地域のごみ減量・リサイクル活動の支援にできるだけ予算をあてるべき。）。
- ・ 子どもの発想というのは、大人の想像が及ばないすごいものがあつたりするので、子どもに施策のアイデアを募集してみてもどうか。
- ・ 行政による冊子の発行は無駄事業としてやり玉に上がっているのが現状ではあるが、一方で、特に有料化財源の用途については、淡々と予算項目を並べて周知するだけではなく、企業のCSRレポートのように具体的に成果の理解を進めることを意識して、「見える化」「腑に落ちる化」を図ることが重要。
- ・ 自宅でお酢の量り売りやリユースびんを利用しており、こうした取組が広く利用されるよう工夫すべき。
- ・ 古い物に一工夫して、おしゃれな物に変えて再使用する運動を推進してみてもどうか。リサイクル・ごみ減量等にデザイナー等の参加による斬新な感覚を取り入れて、女性・若い人たちを取り込む意味で「おしゃれ」というのがキーワード・キーポイント。

## 7 その他市政に関する意見

- 町内のポスター掲示板について
  - ・ 掲示物の大きさを回覧板の大きさにしてもらいたい（回覧で済む場合もある）。
  - ・ 雨のときなどに、掲示板から落ちてごみになっていることがあり、屋外の掲示に耐えられるコーティングを施すなど、町の美観上からも一工夫必要である。
  - ・ ポスターがやたら多く、ごみ減量の観点からいかなものか。
  - ・ 掲示スペースが限られているので、現状多く送られてくるポスターのサイズをより小さくすることはできないか。



京都市廃棄物減量等推進審議会  
第1回有料化財源活用方法検討ワーキングチーム  
ヒアリング資料

平成21-22年度 京の環境みらい創生事業  
デザイン性に優れた太陽電池による  
充電機能を備えたランタンの開発

平成22年6月17日

京セミ株式会社



## 会社概要



- ・光半導体の技術でよりよい社会の実現に貢献することを理念とする。
- ・センサや太陽電池による「省エネ」「創エネ」の提案にも力を入れている。

光通信用デバイス



センサ用デバイス



球状太陽電池



- ・1980年京都で創立
- ・研究開発志向
- ・本社：京都市伏見区

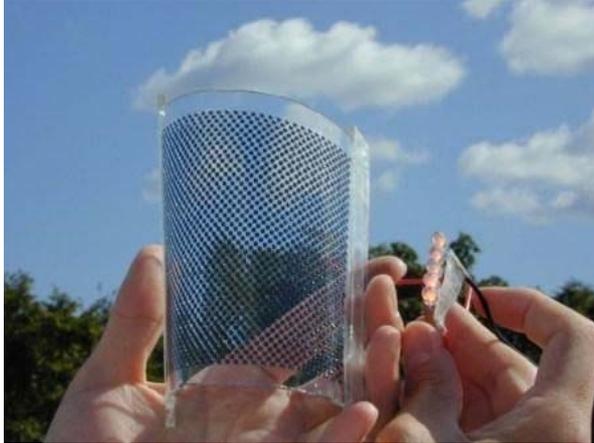
資本金：5億2,150万円

従業員：約160名

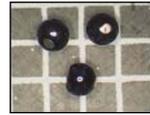
事業内容：光半導体の製造販売



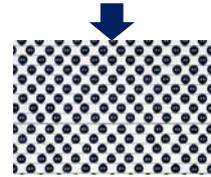
## 球状太陽電池スフェラー®とは



スフェラー  
Sphelar®  
Spherical Micro Solar Cell



京セミが独自に開発した直径1-2mmの球状シリコン太陽電池



メッシュ状に結線してモジュール化

日本特許登録番号:

JP:No.3262174, JP:No.3938908, JP:No.3904558 他、国際特許多数

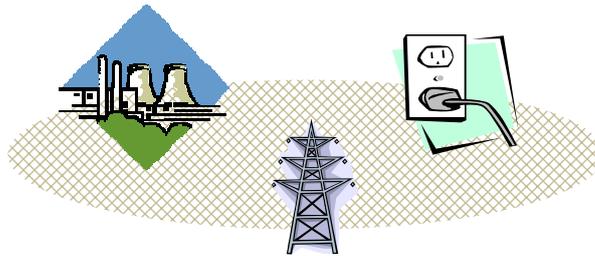
KYSEMI

3

## 社会とエネルギーの関係の変化

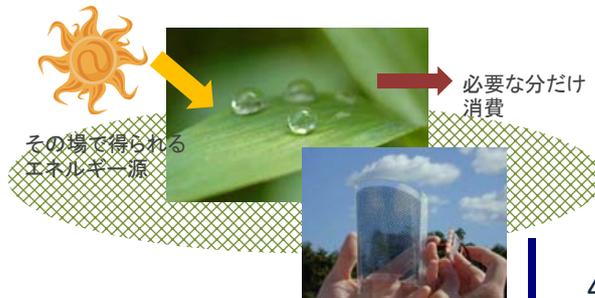
### これまでの社会

エネルギー源／発電所／消費地  
が遠く離れている



### これからの社会

・エネルギーの地産地消  
・賢い(=スマートな)電力の使い方



KYSEMI

4

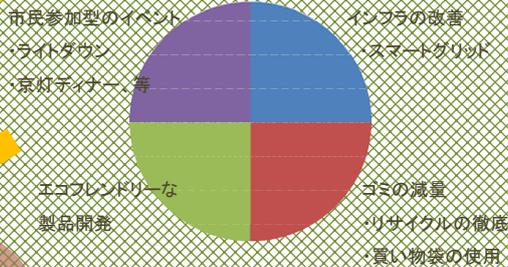
低炭素社会・循環型社会への  
関心の高まり

理想と現実のあいだに  
まだまだ隔たりがある

すぐれたアイデアの必要性

- ・「強制」ではなく「自発」的な参画を促す
- ・日々の生活(ローカル)から地球環境全体(グローバル)に配慮する

さまざまな取り組み



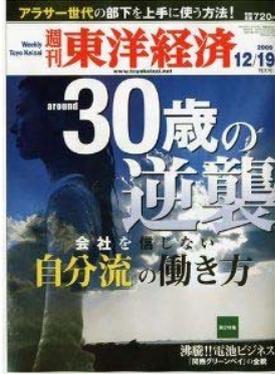
球状太陽電池スフェラーを使った  
ランタン照明の開発



【イメージ】スフェラー + LED照明

- ・屋間の太陽光でバッテリーに充電
  - あらゆる方向から光を採り込めるスフェラー
  - 曇りや雨の日の光(拡散光・赤外線)も利用
  - 設置角度を選ばない
- ・消費電力が少なく、かつ長持ちするLEDを光源部分に仕様
  - 2009年は「LED元年」
- ・誰にでも使いやすい製品設計
  - 簡単なスイッチ機構(開発中)
- ・日常生活の場でも違和感のないデザイン
  - 太陽電池のイメージを覆す
  - デザインは graf (大阪市)との共同作業

## 採択後の反響 / 関西グリーンベイ



『週刊東洋経済』(2009年12月19日号)  
第二特集:「関西グリーンベイ」の全貌  
「先端電池技術を支える関西の隠れた異色ベンチャー」



「世」... 世界を舞台に活躍する企業に...  
「半透明で曲げられるため窓ガラスにも埋め込み可能」  
...  
2009.12.19 週刊東洋経済 94

## 採択後の反響 / デザイン性



『日経デザイン』(2010年4月号)  
「京都に学ぶ伝統と革新」



「Green Building products」として...  
「海外の有名な建築家やデザイナーから...」  
...  
2009.12.19 週刊東洋経済 94

## 独立電源としての用途例



無線センサネットワーク  
(気象データ、災害探知)



障害者自立支援



監視カメラ

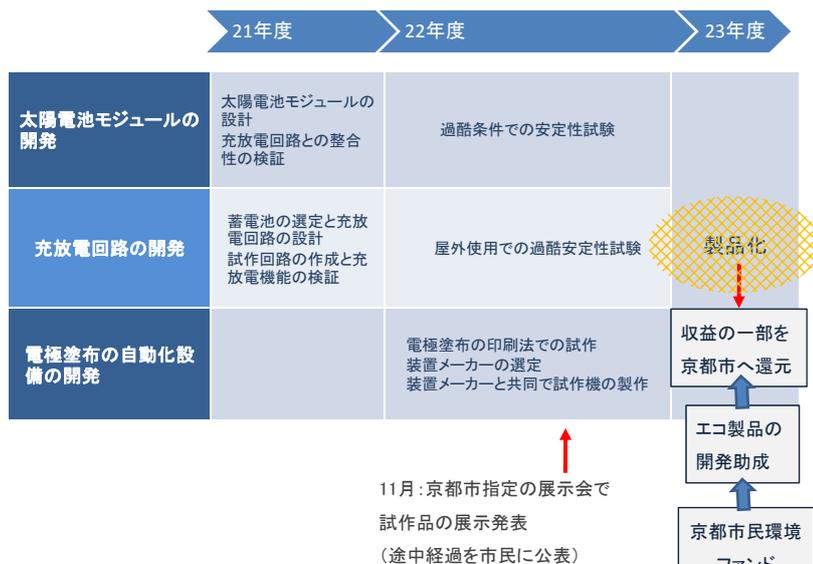


- ・電源をとりにくい場所でも環境光からエネルギーを確保
- ・無線技術や低消費電力技術と組み合わせて賢いシステムを実現

KYSEMI

9

## 市財政への還元までのスケジュール



KYSEMI

10

## 京都市民/地球市民への貢献

### 環境モデル都市京都のブランド向上

- ・海外で認知度の高い「スフェラー」
- ・京都産の先端エコ技術



### 「Do you Kyoto? デー」(毎月16日)

- ・ライトダウン ↔ ライトアップ  
(・キャンドルナイト)
- ・京灯ディナー

### 環境への負荷低減

- ・太陽電池の啓蒙&普及



### ソーラーランタンへの取り組み

- ・製品化後の次のステップ  
→無電化地域に照明器具を届ける活動

**KYSEMI**

11

**KYSEMI**

Copyright © 2010 Kyosemi Corporation

京都市廃棄物減量等推進審議会  
第1回有料化財源活用方法検討ワーキングチーム  
有料化財源活用事業ヒアリング資料

- 平成21年度環境パートナーシップ事業取組内容
- 市民の方々の声
- ごみ袋有料化財源に期待すること

平成22年6月17日

山科区役所区民部まちづくり推進課

- 平成21年度  
環境パートナーシップ事業取組内容

### 1 山科区エコアクションNo.1宣言2009

- (1) 環境イベント「地域のエコの環を広げよう」
- (2) 環境家計簿普及啓発
- (3) 「我が家のエコアクション！」募集

### 2 区民まつりのリユース食器利用

## 1 山科区エコアクションNo.1宣言2009

### (1) 環境イベント「地域のエコの環を広げよう」

日 時 平成21年9月16日(水)  
午後1時30分～午後4時30分  
場 所 京都市東部文化会館ホール  
入場者 460名

#### オープニングイベント

京都橘大学踊り手サークル  
「Tacchi」が中心となり  
「京炎そでふれ！」の踊りを披露



### 第1部 パネルディスカッション

テーマ  
地域のエコの環を広げるには  
内容  
地域でのエコ活動の思いや取組等の  
紹介により、地域におけるエコ活動  
の必要性を訴える。

#### 出演者

##### パネリスト

山科区自治連合会連絡協議会会長会  
山科保健協議会連合会  
「勤修エコライフ19」会  
京都市環境政策局地球温暖化対策室  
コーディネーター  
NPO法人気候ネットワーク

幸田 光雄 代表  
山内 寛 会長  
山本 義幸 代表  
沖 由憲 課長補佐

田浦 健朗 事務局長



## 第2部 映画上映

### 環境啓発映画

「不都合な真実」(ドキュメンタリー映画)

### 出演

アル・ゴア(元アメリカ副大統領)



## 展示ブース

### ・山科区内の市立小学校生徒のエコ活動の取組紹介

#### 主な取組

- ・グリーンカーテン
- ・学校周辺の清掃活動
- ・廃材品を利用した工作
- ・エコキャップ運動
- ・山階南小学校生徒のエコ作品展示 等



### ・京都橘大学学生による学園祭でのエコの取組紹介等

#### 主な取組

- ・エコキャップ運動
- ・エコに関するクイズ 等



## 環境啓発ブース

地球温暖化防止や2R推進のため、山科保健協議会連合会、めぐるくん推進友の会、山科まち美化事務所の合同による啓発ブースを設置

環境政策局地球温暖化対策室から、太陽光パネルに関するブースを設置



## 省エネ相談ブース

京エコロジーセンターから、「環境家計簿」を使用した省エネ相談ブースを設置



## (2) 環境家計簿普及啓発

各学区自治連合会等を通じて取組を依頼した。  
また、区民まつり等のイベントにおいて普及啓発を行った。

取組世帯数（4年間で5000世帯の取組を目標）

平成20年度	938世帯
平成21年度	1649世帯
累計	2587世帯

### (3) 「我が家のエコアクション！」募集

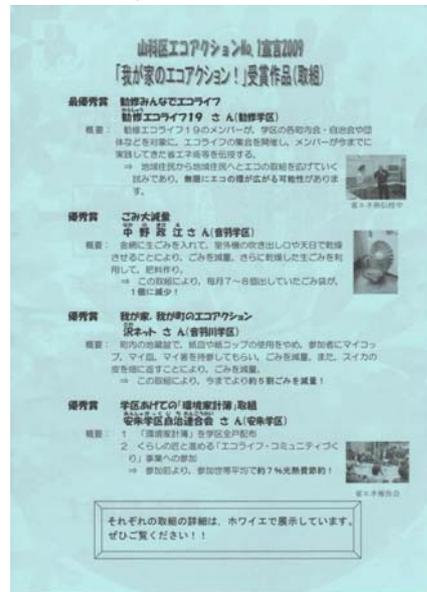
各家庭や地域・企業等のエネルギー節約及び2R（ゴミの発生抑制，再利用）の推進に関する個性的な取組やアイデアを募集。

優秀な取組には，区民芸能フェアの式典において表彰。

表様式

日時 平成22年2月14日（日）

場所 京都市東部文化会館ホール



## 2 区民まつりのリユース食器利用

日時 平成21年11月23日（月・祝）午前10時～

場所 山科中央公園

“エコ・やましな”をテーマとして，約2万人が参加する区民まつりにおいて，模擬店におけるリユース食器の利用，食器トレイのリサイクル，環境ブースにおける啓発など，ごみの減量や再資源化の活動を実践



## 2 区民まつりのリユース食器利用

日 時 平成21年11月23日（月・祝）午前10時～  
場 所 山科中央公園

“エコ・やましな”をテーマとして、約2万人が参加する区民まつりにおいて、模擬店におけるリユース食器の利用、食器トレイのリサイクル、環境ブースにおける啓発など、ごみの減量や再資源化の活動を実践



## ○ 市民の方々の声（環境イベントアンケート集約結果から）

平成21年度の環境イベント「地域のエコの環を広げよう」は、平成20年度の「家庭でのエコの取組」を「地域」にも広げていくことを狙いとして実施した。

〈総括〉

- ・集約したアンケートから、「エコの取組を始めようと思った」や「環境についての認識が深まった」などの感想が多くあった。
- ・他にも多くのエコに対する前向きな感想をいただいたことから、今回のイベントの目的は概ね達成することができたと言える。
- ・平日の昼間開催ということもあったため、参加者は60歳以上の方が多くを占め、若い世代の参加が非常に少なかった。
- ・平成22年度は、土日祝を含めた開催日の検討や、若い世代、特に次代を担っていく子供達が参加しやすいイベント内容を検討していく必要がある。

## ○ ごみ袋有料化財源に期待すること

### ・ 地域におけるエコ活動の広がり

地域においてエコライフ活動を行う団体を立ち上げる際の支援の必要性



## コミュニティ型堆肥化モデル実験について

平成 2 2 年 6 月  
山国自治会事務局次長  
山 本 い こ い

### 1 取組内容

- 地域コミュニティにて生ごみの堆肥化モデル実験
- モデル実験の概要
  - ・参加世帯：100世帯
  - ・収集日時：毎日午前9時から午後5時まで（土日含む）
  - ・収集場所：山国自治会館
  - ・収集方法：フタ付きのバケツに生ごみを入れて持ち込み，堆肥化装置※に投入  
※堆肥化装置は市がリースしたものを使用
  - ・収集品目：家庭から排出される生ごみ
  - ・収集量：8,528キログラム（平成21年2月から平成22年3月まで）
  - ・一次堆肥生成量：1,523キログラム
  - ・堆肥用途：畑など
  - ・取組参加の周知方法：ニュースレターなどを全戸配布
- 生ごみの堆肥化実施に当たり管理人が実施すること
  - ・堆肥化装置の投入口の施錠保管
  - ・堆肥化装置及び付近の掃除
  - ・生ごみの持込量の集計（毎月）
  - ・堆肥化装置から一次堆肥を取り出し，水を加えながらかき混ぜ二次発酵作業
  - ・参加者への堆肥の引き渡し



## 2 コミュニティ型堆肥化に取り組む以前の生ごみの処理状況

- 京都市と合併する以前からコンポスト容器購入の助成促進事業が行われ、多くの家庭で購入して処理していた。  
※ほとんどの家庭が畑を所有している。
- 庭にコンポスト容器を置いていると、悪臭がする、イノシシなどが容器をひっくり返し被害を受けるなどの理由により、燃やすごみに出すようにした家庭もあった。
- 家庭によっては、直接畑に捨てていた。

## 3 コミュニティ型堆肥化に参加しようとしたきっかけ

- 電動式生ごみ処理機の購入助成を受けて購入したが、使用方法が困難で断念していたところにこの話を聞いて。
- 悪臭とイノシシなどからの被害を防げると思ったから。
- 電気代の節約になると思ったから。

## 4 コミュニティ型堆肥化に参加して良かったと思う点

- 市に出す燃やすごみの袋の容量が以前と比べ小さくなり、排出頻度も2週間で3回程度になった。
- この堆肥を使って野菜を作ったら、以前に市販の堆肥を使っていた時と比べて甘みが増したと思う。

## 5 コミュニティ型堆肥化の課題

- コミュニティ型堆肥化モデル実験の取組の参加の呼びかけを、広く周知する方法が困難。自治会のお知らせや、ニュースレターを全戸配布しているが、未だにコミュニティ型堆肥化モデル実験の取組を知らない方がいる。一般にごみに関心のある女性が集まる機会もほとんどなく（自治会の集まりは男性が中心）、参加の輪が広がりにくい。
- 堆肥化装置から一次堆肥を取り出し、水を加えながらかき混ぜ二次発酵させる作業は容易ではない。水を加えるタイミングや期間は、状況を見て適切な判断がいる。実際今までに水を含ませ過ぎて、臭いが出て虫が発生した。そういった管理ができる人がいない限り、コミュニティ型堆肥化を他の地域で行うのは困難に思う。
- 各家庭でコンポスト容器を使用して処理している方もいるので、堆肥化装置の場所まで生ごみを持ち込むことを、手間に感じる方は参加されない。

## 6 コミュニティ型堆肥化の拡大について

- 参加者からは「良かった」、「ありがたい」との声が多く寄せられていて、この取組を続けたい。
- 自宅で堆肥化する方がいる一方、イノシシの被害等のため、こうしたコミュニティ型堆肥化への参加ニーズは、京北の他の地域でもあると思う。
- 取組を拡大するには、堆肥化装置の管理者の存在が不可欠。
- 周知方法を工夫（奥様方に伝える工夫）ができれば、もっと参加率を上げることができると思う。

## 7 コミュニティ型堆肥化モデル実験以外のリサイクルに関する意見

- 京都市と合併する前は、缶、びん、ペットボトルは別々に分けていたが、合併後は缶・びん・ペットボトルの3種混合収集になり、分別する手間が省けて楽になった反面、分別していた時に持っていたごみに関する意識は薄れていった。
- コミュニティ回収施設
  - ・少量でも持ち込みやすく、利用しやすい。
  - ・平日及び第1, 3日曜日の午前9時から午後4時まで開いているので、仕事の都合に合わせて、買い物の途中に車で運ぶなどして持ち込める。
  - ・一方で、開設時に常時監視している訳ではないので、布団等の不適物の持ち込みを阻止する必要がある。





## 京都市ごみ減量推進会議の活動 について

～パートナーシップ組織、環境活動の中間支援的  
団体の一例として～

京都市ごみ減量推進会議  
事務局  
野村直史

## 京都市ごみ減量推進会議の概要(1)

- 市民と事業者、行政のパートナーシップによる、  
ごみ減量活動に取り組む団体  
(設立:1996年11月, 会長 高月紘)  
『手を取り合って、ごみを減らそう!』
- 会員数は390(平成22年5月末現在)
  - ・市民団体 47
  - ・地域ごみ減量推進会議 136
  - ・大学・専門家 17
  - ・事業者団体 40
  - ・企業・マスメディア 149
  - ・行政(京都市) 1

## 京都市ごみ減量推進会議の概要(2)

- 事務局は京都市循環企画課が担当  
(事務局は京エコロジーセンター活動支援室内)
- 事務局構成
  - ・事務局長(循環企画課課長)
  - ・市職員 3名
  - ・嘱託職員 2名 ◀ 有料化財源の活用に伴い、平成19年度から採用
- 事務局の主な業務
  - ・事業／予算の執行管理
  - ・資料／パンフ等原稿作成
  - ・関係者調整
  - ・事業の企画／組立／コーディネート
  - ・啓発イベント等の準備
  - ・事業実務 など

## 京都市ごみ減量推進会議の概要(3)

平成21年度の事業の構成

会長

- 普及啓発実行委員会(7事業)

会報誌の発行／市民公募型パートナーシップ事業など

- ごみ減量事業化実行委員会(3事業)

再生紙推進事業／市役所前フリーマーケットなど

- 地域活動実行委員会(131団体)

地域ごみ減量推進会議の活動支援等

理事会

常任  
理事会

- 2R型エコタウン構築事業(5事業)

リペア・リメイク情報発信／エコ商店街事業など

有料化財源の活用に伴い、平成19年度に新設

## 2R型エコタウン構築事業実行委員会(1)

- Reduce、Reuseの2Rを重視したまちづくりには、物の売り方、買い方も含めた対策が必要

市民、事業者、行政の協力が不可欠

### 2R型エコタウン構築事業実行委員会の設置

- リペア・リメイク情報発信
- エコ商店街
- レジ袋削減(買い物袋持参キャンペーン)
- リユースびんの利用促進
- 買い物でエコキャンペーン(21年度から)

## 2R型エコタウン構築事業実行委員会(2)

### 事業の方向性について

- 2R型まちづくりに貢献する実効性ある事業の展開
- (事業性のあるものについては、概ね3年を目途に) 経済的に自立しうる事業の展開を目指すこと
- 公益性の高い事業の展開を目指すこと
- 2R型のライフスタイルの形成、持続可能な社会に向けた文化の形成に資すること
- 成果を発信し、広く市民に報告・共有すること。



— 毎年度、成果報告会を開催

## リペア・リメイク情報の発信

みやこ

### 京のお直し屋さん 紹介サイト 「もっぺん」

#### 洋服等の日用品の 修理店舗を紹介



- 需要の掘り起こし
- 修理(産業)の活性化



<http://www.moppen-kyoto.com> (公開 平成20年2月)



それまで修理店舗についての体系的な情報は整理されていなかった。(組合等もない。)

- 店舗の取材は学生が担当
- デザインも学生が担当



- 掲載店舗の確保(趣旨説明)
- 店舗情報の質の確保
- ホームページ等のない店舗の掘り起こし

## 「もっぺん」アクセス数の変化

公開以来、アクセス数(訪問者数)は順調に増加



## 「もっぺん」掲載後の反響 (掲載店舗調査H21.2)

	(件)	(%)	10	20	30	40	50
1. 「もっぺん」を見た方から問い合わせがあった	24	44.4	[Bar chart showing 44.4%]				
2. 「もっぺん」を見た方から注文があった	15	27.8	[Bar chart showing 27.8%]				
3. 初めて来店される人が増えた	8	14.8	[Bar chart showing 14.8%]				
4. 問い合わせが増えた	6	11.1	[Bar chart showing 11.1%]				
5. その他	6	11.1	[Bar chart showing 11.1%]				
6. 特に変化はない	19	35.2	[Bar chart showing 35.2%]				
不明・無回答	0	0.0	[Bar chart showing 0.0%]				
回答者総数	54	100.0	[Bar chart showing 100.0%]				

問い合わせがあった 44%

注文があった 28%

実際の利用に確実に結びついている。

## バナー広告事業(サイト価値の利用)

- アクセス数の向上(月平均17,000PV)
- 掲載店舗数の充実(公開時54店→現在175店)



サイトの価値をある程度作れたと判断

- バナー広告事業の開始(平成22年7月)



- サイトのランニングコストの確保を目指す。

## エコ商店街事業

- 「はかり売り」や「はだか売り」など、商店街の昔ながらの知恵を、ごみ減量に役立てる。
- 商店街で取り組む環境に配慮した活動を、商店街の活性化にもつなげていく。
- 商店街を中心としたエコ地域づくり。

- 公募の結果、出町商店街をモデル商店街として選定



## エコ商店街の展開

1年目  
H19年度

モデル商店街の公募

10月～11月

出町商店街振興組合を選定

基礎調査の実施

2月～3月

レジ袋使用量・ごみ調査、  
買い物実験など

2年目  
H20年度

商店街ヒアリング

7月～8月

エコスタンプ事業試行

10月(1週間)、12月(2週間)、  
3月(2週間)

3年目  
H21年度

エコスタンプ事業拡大

6月(1ヶ月)、10～12月(3ヶ月)、  
2月～4月(2ヶ月)

生ごみたい肥化事業

4月～

※商店街が独自に取り組む方法を検討

## 「エコ」で出会う。「エコ」で結ぶ。

●デザイン(エコスタンプ事業等)

**大学** × **商店街** × **環境**

●京都精華大学(叡山電鉄沿線)

●芸術

●生ごみ堆肥化事業

**小学校** × **商店街** × **環境**

●京極小学校(商店街と同じ学区)

●教育 → KBS京都ラジオによる特集

## エコスタンプ事業



スタンプ 82種類作成

- レジ袋・トレイ辞退などで、スタンプ1個を押印
- 10個で特典

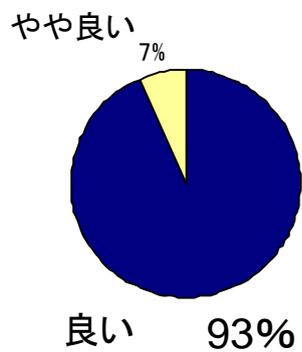


抽選風景

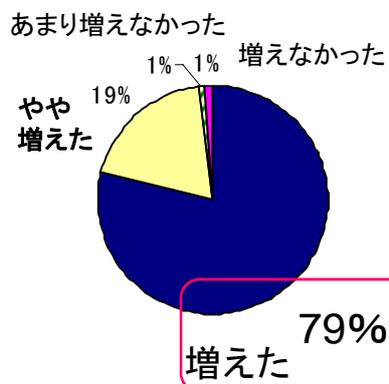
## デザインがお客さんの心もつかむ

スタンプ集めるのが楽しい！

エコスタンプ事業は？



エコスタンプ事業で、レジ袋を断る機会には？



※回答数:134

## エコスタンプ事業効果の推定

利用客からの好評が、店主の意欲の向上にもつながり、参加店舗、期間ともに徐々に拡大していった。



レジ袋 25~33%削減

## 試行を重ねる中、年間の経費の検討が可能に

- これまでスタンプカードは月に1万枚配布
- 回収されるスタンプカードは月2000枚程度

### 【年間の経費の検討】

必要経費	カード印刷費(※1)	240,000
	20円として利用	480,000
	経費合計	720,000
経費削減	レジ袋代削減効果(※2)	1,056,000
差額		336,000

※1 スタンプカード1枚2円

※2 レジ袋単価:2円

レジ袋削減枚数:回収数×10+(配布数-回収数)×3 として計算

## 生ごみたい肥化事業 ～たい肥作り～



一次発酵



二次発酵



- 4月から生ごみ収集
- 当初4店舗が参加

約2ヶ月かけて完成

## ゴーヤのグリーンカーテン作りに利用



- 硝酸イオン濃度の測定
- 花の観察
- グリーンカーテンの効果測定
- 調理実習
- 計8回の環境学習

## 商店街でのイベント開催

- 6月のエコスタンプ期間に開催
- 児童の保護者も多数参加



### 【エコ標語】

エコエコと

言ってるわりには

できてない

## エコ商店街 成果と新たな展開

- 商店街の方のエコ意識の向上
- 生ごみたい肥化事業を通して、取組は地域にも浸透（区民運動会でのエコスタンプの利用など）



エコスタンプ事業は、平成22年度、出町商店街で予算化

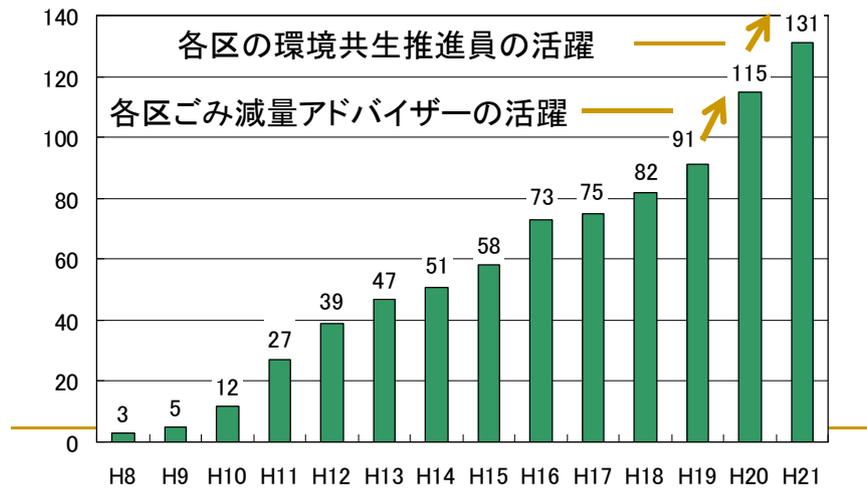
出町での取組をまとめた「エコ商店街ハンドブック」を作成し、市内81商店街に配布。アンケートも実施

※現在、新たな商店街において取組を協議

## 地域ごみ減量推進会議の拡大

- 学区単位で立ち上げ。近年、立ち上げ件数が増加

立ち上げ3年目まで年間5万円、以降年間2万5千円の助成金の交付



## 地域ごみ減量推進会議の課題

- 夏祭りでのリユース食器の導入や、フリーマーケットの開催など、活発な活動をしている地域もあるが、天ぷら油の回収や学習会の開催に留まっている地域も多い。



より多様な活動の展開が望まれる

- 情報の交換や活動メニューの提示も重要だが、活動をアドバイス・コーディネートしていく中、活動モデルを増やしていくことも重要では？

## 京都市ごみ減量推進会議 役割と可能性

- 市民、事業者、行政のパートナーシップの構築とごみ減量の実践活動そのものを目的に設立された「京都市ごみ減量推進会議」は、京都市のごみ減量を進める上で重要な役割を果たしうる。



- 事業者の取組を積極的に応援することが可能
- 市民、事業者のパートナーとして協働が可能
- 行政の施策とも連携した取組が可能
- 環境活動を事業化していくことも可能

## 京都市ごみ減量推進会議 可能性と課題(1)

- 中小事業者や市民団体・地域ごみ減に対し、アドバイスやコーディネート、協働をしていくことで、ごみ減量活動の創出・活性化が可能



ごみ減量、コーディネート等についての知識や経験を有し、協働できる人が必要

安定して機能を発揮するために必要なこと

- ごみ減量、コーディネート力のある人材の確保
- 知識や経験の組織としての共有
- 事業のモデル化

## 京都市ごみ減量推進会議 可能性と課題(2)

- 今後、質の高い事業を構築・実施し続けていくことができれば、事業者等からの活動・事業に対する出資の増加も期待できる。



丁寧な事業の構築や実施ができる体制づくり、安定した事業の実施体制の確保が必要

事務局体制の強化・安定も必要不可欠

## 環境モデル都市「京都」の確立に向けて

- 環境活動の充実・活性化

すでに環境活動に取り組む団体の活動の充実も重要だが、一方で、数が限られてしまう現状もあるのでは？

- 意識はあるが、何をしたらいいかわからない。
- したいことはあるが、事業として組み立てられない。
- 活動内容はあるが、補助金等の申請ノウハウがない。

こうした団体をいかに、実際の活動に結び付けるか？



裾野を広げ、京都の環境活動を変える上で重要

しかし、単に補助金をうつだけでは育たない面もある。

## 環境モデル都市をつくるのは「人」である

- アドバイザー的役割を果たす人の存在
- (ある程度の期間) 共に働くことのできる人の存在
- 環境活動の中間支援的な団体の活用



- 草の根の環境活動のサポート
- 事業者等の環境活動の強化(強制によらない)
- 自立的な環境活動の創出



環境モデル都市「京都」で、環境分野の仕事に専念できる人を、どのくらい養い、生み出せるのか？

そうした視点も持って、有料化財源が活用されることを望みます。

